

近畿学校保健学会通信

16 26

昭和49年7月25日

第21回近畿学校保健学会事務局

(〒520) 大津市石山平津町197

滋賀大学教育学部

健康学研究室内

TEL 0775-37-0081

振替口座番号 京都 17762

新しい学校保健の問題

京大教授

宮田尚之

周知のように、第2次大戦後、わが国では、従前の学校衛生が、学校保健と改名されて、健康のことが、教育の中に、大きく取り入れられました。そしてその後30年に近く、その間、学校保健そのもの、根本理念は、変わっていないが、その実際的な具体的問題は、かなり大きい変化をしているのであります。

以下、その2・3を例示してみますと、

- (1) 当初は結核や寄生虫が最も重要な1つの問題でありました。そのためツベルクリンやBCGの接種、あるいは検便が具体的な学校保健の仕事でありました。しかし今では、それらは余り重視されず、むしろ腎炎、ネフローゼ、あるいは心臓病が問題となり、実際的には、検尿や心電図検査が大切になって来ました。
- (2) 同様に、肢体不自由の問題でも、昔は、小児麻痺が多くありましたが、今では、自動車事故や骨折、外傷などが多くなっています。
- (3) 栄養不良というと、以前は瘠身(やせ)が主でありましたが、今では逆に肥満の方が重視されているのであります。
- (4) 精神衛生上でも、はじめは、精神薄弱や精神病的なことが重視されていましたが、近年では、学校恐怖症(登校拒否症)、緘黙症、自閉症が問題の中心となっています。
- (5) 環境衛生上でも、昔は照明、換気などが主な問題でありましたが、今では、オキシダントやレントゲン公害が問題化されています。

以上のように、知らず知らずの間に、学校保健の実際内容には非常に大きい変化が起っています。

そして、それらについて、最も根本的な違いと考えられることは、以前のそれらの問題は、従来より、医学がある程度の病理を解明していたことであって、学校保健は、その結果を利用すればよかったのであります。しかし現在の多くの問題は、医学では今迄にほとんど解明していないことばかりであって医学に余り頼れない実状であります。従って、これらは、われわれ学校保健の担当者達が、自らの手によって、それを解決しなければならないと言うことでもあります。従って、その事は、一面まことに困難なことでありましょう。しかし他面、それだけ

らこそ、やり甲斐のあることと存じます。よって、われわれが、力を合して、問題や実例をもち寄って、その中から、これを抽象考察する必要があるまいしょう。その場所こそが、この学校保健学会なのであります。

このような意味において、どうか今回の山田会長の第21回近畿学校保健学会に、ぜひ、多数ご参加賜りまして、互によくご研鑽下さいますよう、心からお願い申し上げる次第であります。 (1974.7.10)



近畿学校保健学会に寄せて

滋賀県医師会会長 本原貫一郎

§ 単独校医時代から医師会会員全員校医制の集団校医時代となりそして更に専門医を中心とする専門校医活動時代となった今日の学校保健を裏付けする様に学校保健学会が滋賀県に於ても力強く再発足出来たことは滋賀県の学校保健活動に新風を吹き込んだものと言えよう。これを機に強力な学校保健活動が期待出来るわけであるから。

§ 学校保健活動というものは学童生徒の健康管理のためであることは申すまでもないが、同時にその中には保健衛生教育というものも一つの大きな目的であり更にそれが地域保健にと地域医療にも直接間接につながるものであり、学童が大人となった遠い将来の成人病にも連るものと言えるから、その意味に於ても学校保健関係者はみんなが新しい医学の進歩に沿った知識をもち、進んだ医学医術の効果を常に学童生徒に及ぼさなければならない大切な勉強の場を持たなければならないわけである。

§ 単独校医制に支え切れなくなった学校保健を、集団校医制で支えていた量の学校保健活動を更に質的に進めた新しい専門校医活動時代が到来して来た所以であろう。

この意味で学校保健学会を大いに育て、大いに活用し、最新の医学を身につけて日常の学校保健にたづさわりたいものである。

学校保健学会という場で研修を重ねた新しい知能を携えて日常夫々の持場で学校保健活動にその腕を振り、その成果を提げて学校保健会という場で研を競うことが今日の学校の本姿であることも考えて。

学校保健学会の振張を祈るや切。

研究発表プログラム

- AM 9.50 1 大津市内学童における溶連菌感染の実態
○ 竹内 つね (大津市学校医師会)
- 2 滋賀県における身障者施設の児童口腔診査結果から
(特にダイランゲン性歯肉増殖症に対する一見見)
○ 小林 恢 佐藤 守 富永 才助 (滋賀県歯科医師会)
- 3 地域環境別にみた児童の骨成熟と体力との関係
○ 吉岡 文雄 小西 達郎 田上 憲二 (京女大)
種村 紀代子 (京女大) 青木 安子 (大阪百済小)
- 4 防衛体力の環境医学的研究第3報
○ 木村 静雄 (立命大) 北村 幸子 (阪南中)
日比野 朔郎 (京府大) 大山 良徳 (京大)
三宅 義信 (京女大) 瀬戸 進 (大谷大)
小西 博喜 (京工繊短大) 綱村 昭彦 (立命大)
平野 登志子 (華頂短大) 川畑 愛義
- AM10.30 5. ストレス現象の脈波に関する研究
(寒冷刺激による指炎容積脈波の方法論的検討)
○ 平野 登志子 (華頂短大) 川畑 愛義 木村 静雄
(立命大) 三宅 義信 (京女大) 日比野 朔郎 (京府大)
瀬戸 進 (大谷大) 小西 博喜 (京工繊短大)
大山 良徳 (京大) 北村 幸子 (阪南中)
- 6 学童の学校内負傷事故に関する研究第1報
○ 青木 安子 中嶋 基代江 土井 とよ (大阪百済小)
- 7 歯みがき指導の評価に関する検討
○ 林 正 中条 啓子 (滋賀大教育)
- AM. 11.00 8 保健指導に関する基礎的研究第1報
(神戸大附小中学生の実態調査から)
○ 鈴木 和子 柏原 市恵 (神戸大附小) 五十嵐 裕子
(神戸大附中) 南 哲 (神戸大教育)
- 9 保健調査の現状とその問題点について
(兵庫県下の実態調査結果を分析して)
○ 南 哲 (神戸大教育) 立石 光代 (兵庫県教委)
- 10 幼児の運動指導 (みどり幼稚園の指導のあゆみ)
○ 西尾 永久子 (みどり幼稚園) 中後 博 笠松 勇次
(和歌山大教育)

第 2 1 回 近畿学校保健学会開催要綱

- 1 会 長 山 田 一 (滋賀大教授)
- 2 事 務 局 滋賀大教育学部健康学研究室 (事務局代表 林 正)
大津市石山平津町197
- 3 開催 期 日 昭和49年9月6日 (金)
- 4 会 場 滋賀県合同ビル (5階) 滋賀県庁前
大津市京町4丁目1-1 (国鉄大津駅下車徒歩約7分)
- 5 日 程 受 付 9:00~9:45
一般口演 9:45~13:40
(昼食時に評議員会・滋賀県厚生会館3階医師会会議室)
特別講演 13:50~14:50
「学校保健の組織活動における問題点」
京大教授 宮 田 尚 之 先生
シンポジウム 15:00~16:00
「学校保健の各組織における活動の問題点」の予定です。

事務局だより

訂正とおわび、No.25の学会通信で講演のテーマは、積極的な保健組織活動の考え方と報告しましたが、都合により「学校保健の組織活動における問題点」と訂正させていただきます。従ってシンポジウムの方も「学校保健の各組織における活動の問題点」とあらためさせていただきます。

以上のことは、8月7日の幹事会で了解を得る予定です。